



NEWS 小諸市による歴史的な建物の調査が、進んでいます。

この「伝統的建造物群保存対策調査」は、文化庁の補助を受け、信州大学工学部建築学科の土本研究室に依頼し、昨年9月から開始。

現今まで、民家は27件（主屋22棟、離れ2棟、蔵30棟、井戸2カ所）、寺社2件を調べました。最終的には、民家30件と寺社7件になるとのこと（10月末）。3月末には、報告書を刊行を予定。

その後市は、伝建をどう進めるかということについて、本町、市町と調整・協議するそうです。建物所有者の多くから、「大変熱心に調べていただいていたうれしかった。建物の価値を再認識する機会になった」との感想が聞かれます。

この調査により町並みの価値を明らかにし、国の文化財として認められることが期待されます。

「伝建」で広がる夢！小諸宿の10年後の将来像づくりにご参加ください。

実施主体／本町区まちづくり推進協議会、市町本陣会・裏町会有志、NPO法人小諸町並み研究会

伝建の調査と合わせ、地元では歴史的建物や資産を活かした、観光商業の将来像を検討を進めています。

- 歴史的な建物の活用方法について、提案を考える。
宿場のたんざく型の敷地の店、中庭、蔵などをの活かし方の提案を、建築や不動産の専門家などが出し合ってみる。
- 商業商業地づくりの具体的なプランを練る。
美しい町並みに、魅力的な店・宿、見たいもの、食べたいもの、歩きたい場所をうまく配置して、大勢の人を呼ぶ。

10/7、8「城下町フェスタ」の時に、まちの将来像を、町屋館、桑屋の横で展示します。見てくださいね！

●本町のミドル世代の話し合いがキックオフ！

8月28日に、6人が参加して第1回の会合が行われました。将来像の話の中では、以下のような意見が出されました。

- ・事業やりたい人が借りられる店、建物を増やしたい。
- ・軽井沢から客をひっぱれるし外国人も喜ぶような、古い建物を活かした店で、地域色のあるものを提供できるとよい。
- ・観光用の駐車場は、欲しい。
- ・町屋館の活用を考えよう。
- ・この場に集う仲間を増やそう。
- ・建物の見学会を企画しよう。



7/26 町並み学習会の報告

「川越の歴史まちづくり&観光おこし」

講師に加藤忠正さん（元川越市都市計画部参事）をお迎えして、40年前はさびれた町だった川越が、住民主体のまちづくり、都市計画で今の姿になったというお話を伺いました。

- ・はじめは古い建物を大事に思う建築家、大学の先生、住民有志が「蔵の会」をつくり、調査やイベントなどを行ないました。
- ・そこで建造物に関わるデザインのルールなどを話し合ううちに、商店街が町並みによる活性化に動き出しました。
- ・市役所は、住民主体のまちづくりの動きを後ろから支援。都市計画のマスタープランをつくり、様々な国の制度を入れて着々と町並みと景観の整備を進めていきました。
- ・「伝統的建造物群保存地区（伝建）」の選定を受け、建物をみんな決めて決めたルールに沿って、直したり、新築したりするようになり、少しずつ町並みが揃ってきました。電線地中化や石畳、街路灯を撤去し雰囲気のある照明に変えたりしました。
- ・伝建のいいところは、終わりなく国の支援が受けられるところ。35年かけて、町並みが整い、客が倍増しました。



町並みルールに乗っ取った新築のスターバックス



新築の建物も含めて、歴史の町並みが再生され観光客を集めている

- ・町並み形成の国の制度として、3つをセットで実施するのをオススメしたい。中心的な町並みは「伝統的建造物群保存地区（伝建）」で重点的に、それを含んだ広い歴史エリアに「歴史的風致維持向上計画（歴まち）」をかける。そして、「景観計画」で景観破壊からまちを守る。この中で「歴まち」は、建物の他に、お寺やさまざまな歴史遺産の保全に使えるのでおすすめです。小諸ならば石垣の保全などにも使えます。
- ・蔵の会の仲間の中で、伝統的な建物のリノベーションや、店づくりに取り組む若い人なども育ち、活用が進んでいます。

この講演の動画は以下のサイトから見られます。
<https://komoroya.wixsite.com/news>